

平成26年度6月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成26年6月9日（月）午前10時～10時40分

場所 市役所2階第1委員会室

出席 市政記者クラブ9社

会見内容

1. 話題提供（5項目）

1. 釧路市民防災センター電子DIG（防災図上訓練）装置の導入について

- 7月1日（火）、釧路市民防災センターに電子DIG（防災図上訓練）装置を導入します。
- 平成26年度予算の「元気創造枠（職員提案事業）」で採用された、「防災マイ・まっプランナー」養成推進事業によるもので、このDIGボードを活用した研修会の開催を予定しています。
- 電子DIG装置は、プロジェクターでデジタルシートへ地図を写し、映し出された地図にデジタルペンで情報を書き込む。書き直しも簡単にでき、白地図ではできなかった地図の移動も簡単にできます。
- 電子式DIG装置導入後には、市民防災センターで一人ひとりに合わせた避難計画地図を作成するための指導やアドバイスをし、自分の住む地域や会社などで災害時の避難計画を考える際のプランナー、アドバイザーとなれるよう「防災マイ・まっプランナー養成の研修会」を開催します。今年度は、1200人のプランナー養成が目標となっています。

2. クルーズ客船寄港に伴う歓迎体制について

- 釧路市では、釧路管内の交流人口拡大と地域の活性化を目的に、調査・研究、ゼミ合宿の誘致促進を図る取り組みとして「2014年度版釧路地域政策本」を発行しました。発行にあたっては、釧路管内の各町村からご協力をいただきました。
- 地域で取り組まれている様々な取り組みは、自分たちにとっては何気ない取り組みであったとしても、他の地域の方が見ると、中には価値の高いものがあると思います。自信を持ってこれを他の地域に発信していけば、新たな地域資源になるのではないかという発想に基づき、本事業が生まれました。
- 釧路管内で取り組まれている先進的な取り組みや我々なりに自慢できる取り

組みなどを47項目紹介しており、1,000部発行しました。

- また、釧路管内で調査・研究、ゼミ合宿をしていただき、その研究成果を地域に還元していただくことも大切と考えています。還元いただくことで、釧路地域の政策はより磨かれることとなり、地域の活性化が図られ、持続可能な地域社会にさらに一歩近づくことができるものと思っています。
- 調査・研究、ゼミ合宿がきっかけとなり、釧路地域において学会などが開催され、さらなる交流人口拡大につながればと考えております。
- この取り組みの一環として、去る6月5日から6日にかけて、北海道大学公共政策大学院の特別企画ツアーを受け入れました。28名の教職員を含む院生が釧路市を訪れ、市の政策である都市経営戦略プランによる市政改革、そして釧路湿原自然再生の実践について勉強されていきました。

3. 平成26年度元気な釧路創造交付金事業について

- 「元気な釧路創造交付金」は、地域やまちづくりの課題を市民と行政が共有し、協働、連携して公益的な事業を実施することにより、課題の解決や地域の活性化を図るため、市民の皆さんからの事業提案をいただき、市役所と協働して取り組みことを支援することを目的とし、平成23年度に創設しました。
- 平成26年度は「域内循環」・「地域を担う人材育成」・「安心して暮らせる都市づくり」を課題テーマとしました。
- 5月1日から5月23日まで提案事業を募集したところ、新規事業5件、継続事業3件の計8件の申請がありました。申請の全てにつきまして、一次審査（書類審査）を通過したところです。
- 2次審査となるプレゼンテーション審査は、6月14日（土曜日）午後1時から、まなぼっと幣舞5階 ハイビジョンシアターで開催します。

4. 長期滞在の取り組みについて

- 平成25年度の長期滞在者受入実績は、北海道「ちょっと暮らし」事業ベースで、141組225人、延べ滞在日数7,174日（前年度より45人、延べ滞在日数は340日の増加）になりました。
- 昨年度は、研究会の会員である釧路プリンスホテルが主体となり、釧路市での

避暑をテーマにした夏季の長期滞在型旅行商品が造成され、阪急交通社の9泊10日の長期滞在ツアーでは391人の滞在。避暑地としての釧路の認知が進んだ年となりました。

- 今年度は釧路での避暑生活が、旅行会社によって商品化される動きが、より一層、顕著になっています。
- これまでのPRは東京をはじめとする関東圏と大阪をはじめとする関西圏が中心でしたが、今回の中京圏のほか、今後は、問合せや滞在実績が増えてきている中国地方、九州などの西日本へのPRにも力をいれていく予定です。

5. 阿寒国立公園指定80周年記念事業について

- 去る、5月25日（日曜日）にモニターツアーを実施した、「阿寒湖温泉発！オンネトーウォーキングと人より大きいフキとりツアー」について、6月10日から毎日催行します。
- 6月20日（金曜日）から8月31日（日曜日）まで、「阿寒湖まりも夏希灯（なつきとう）」を開催します。
マリモに見立てた緑色に光る球体に、メッセージカードを託して遊覧船から阿寒湖に流します。阿寒湖に、緑色の光が映え、大変幻想的な風景が楽しめます。
- 6月21日（土曜日）には、NPO法人 阿寒観光協会まちづくり推進機構の主催で、前田一步園財団等の協力をいただき、阿寒国立公園内の松浦武四郎の足跡をたどる、「新緑の阿寒国立公園を歩こう！」が開催されます。
阿寒の自然の魅力を堪能できるとともに、人と自然の共生の在り方を体感できる素材が満載のコースですので、できるだけ多くの方に参加していただきたいと思っています。
- コーチャンフォーグループ（株）リライアブルが実施主体となり、コーチャンフォー道内6店舗（ミュンヘン大橋店、美しが丘店、新川通り店、釧路店、旭川店、北見店）で、阿寒に関する書籍を集めたブックフェアを開催し、阿寒の文化発信を行っています。
- 今年度は、既存の事業につきましても、80周年記念と銘打ち、地域一体となって、国立公園指定80周年の記念すべき年を盛り上げ、阿寒地域の魅力発信に努めていきます。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 電子D I Gの装置は、まだ納入されていないのですか？

(消防本部次長)

- ・ 6月23日頃に市民防災センターに納入される予定です。

(市長)

- ・ 7月1日の運用前には、報道機関の皆さんに公開する場を設けるように調整します。

(質問)

- ・ 道内初とのことですが、道外での導入実績はあるのか、教えてください。

(消防本部次長)

- ・ 今回導入する機種は、東京に1台ある他、道内では初導入です。
- ・ 他の機種（業者）については、把握していませんが、今回導入するもののよう
に防災計画に応用したものは、全国で2台目と聞いています。

(質問)

- ・ 1台の値段を教えてください。また、類似のもの（機種）があるということ
よろしいですか。

(消防本部次長)

- ・ 1台、約900万円です。
- ・ また、類似のものはあります。

(質問)

- ・ 研修会を開催すると書いていますが、開催予定は決まっていますか。
7月1日の初日には市民の方が体験できるようになっているということで、よ
ろしいでしょうか。

(市長)

- ・ 7月1日には、体験できるようになっています。
- ・ 自主防災組織や町内会、企業や学校などに声をかけて、研修会を開催する予
定です。その他、個人で体験したいという方もいると思いますので、幅広く募
集をかける予定です。

(質問)

- ・ 旧日銀釧路支店の跡地取得を検討しているとのことですが、その判断の背景と今後のコストについてどのようにお考えになっているのか、お聞かせください。

(市長)

- ・ 民間の市民団体の皆さんの中にも保存に向けた動きがあったのはご存知の通りだと思いますが、旧日銀釧路支店の建物は、市民にとって象徴的なものであり、このまちのシンボルであると考えています。
今後、どのように活用するのかについても検討していかなくてははいけません。自治体が購入しない場合には、民間へ売却となり、建物が取り壊される可能性もありますので、まずは保存に向けた検討をしていくことが大事であると考えています。

(質問)

- ・ 8月から自治体向けの募集が始まる見込みですが、今後のコストとの兼ね合いについて、どのように判断するお考えなのか、お聞かせください。
また、現在、試算などしているのかお聞かせください。

(市長)

- ・ 基本的に建物を残していくことが大事だと考えています。
- ・ 試算を含め、詳細な検討はまだ行っていません。

(質問)

- ・ 取得までの間、市民からの意見を聞く機会を設ける予定があるのかお聞かせください。

(市長)

- ・ 市民の総意ということで、議会の皆さんには報告する考えでいます。
- ・ 最終的な判断では、コストの問題も出てきますが現実的な検討はこれからです。市民感覚で考えると、まずは保存を検討することが大事であると考えています。

(質問)

- ・ 北大通全体のまちづくりから考えても、建物の保存が適切だとの判断となるのでしょうか。

(市長)

- ・ 北大通全体との関係となると、すぐにつながるものではないと思います。しかしながら、ロータリーを含めて、あそこに日銀の建物があるというのは、まちのシンボルでもあり、市民の思いは極めて熱いと感じています。それが団体の皆さんの保存活動にもつながっていると思います。

(質問)

- 北大通の再開発が進んでいるとの話もありますが、どのようにお考えかお聞かせください。

(市長)

- 再開発に向けて動き出して、本当によかったと思っています。平成20年にまちづくり会社ができ、今、このような動きが出てきたのは喜ばしいと思っています。
- この地域のポテンシャルを見てくれていた方がいたということでもあり、今回の動きが地域の活性化につながることを期待します。